

## スポーツ医学の地方創生

大森 豪\*

### ●はじめに

現在、我が国において様々な「地域格差」が問題となっている。スポーツ医学においてもスポーツ人口減少、指導者不足、スポーツ環境整備不足、アスリートサポート不十分と言った地域格差の問題が浮き彫りにされている。これらの課題の中でスポーツ医学の観点からはアスリートサポート体制の問題が重要視されている。本稿では、筆者らが新潟県で行ってきた直近 10 年間のアスリートサポート活動について概説する。

### ●新潟県の現状

新潟県は、近年サッカーやバスケット、野球、アメリカンフットボール等でプロチームが誕生するなどかつての「スポーツ不毛の地」から脱却しつつある。しかし、日本で 5 番目に広い面積を有し、さらに人口 10 万人当たりの医師数は 197 人と全国で 4 番目に少ないため、常に医療体制での課題が議論の対象となっている<sup>1)</sup>。

### ●新潟医療福祉大学

筆者は 2013 年に新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科に入職した。本学は 2001 年に開学し、現在、医学部と歯学部を除いた 7 学部 15 学科、学生数は約 5,000 人を有する医療系の総合大学である。さらに、スポーツ振興に力を注いでおり、14 の強化指定運動クラブからはサッカーの J リーグや We リーグ、バレーボール V リーグ、バスケットボール B リーグやプロ野球など多数のプロ選手を輩出している<sup>2)</sup>。

### ●アスリートサポート研究センター

2016 年に学内強化クラブのアスリートサポートを目的に開設した。センター設置に際しては理学療法学科の江玉陸明教授に多大な尽力をお願いした。本センターには様々な領域の専門職がスタッフとして参加し、選手を医学的のみならず栄養、心理、バイオメカニクスなどの科学研究など多角的な側面から一元的にサポートするシステムを構築した。また、新潟リハビリテーション病院スポーツ医学総合診療センターや新潟県健康づくりスポーツ医科学センターなど学外の専門施設との連携も構築した(図 1)。その取り組みは UNIVAS (一般社団法人大学スポーツ協会)で高く評価され、2023-2024 年の UNIVAS AWARD (MS&AD 賞)「安全確保に関する優秀な取り組み」の最優秀賞を受賞した。

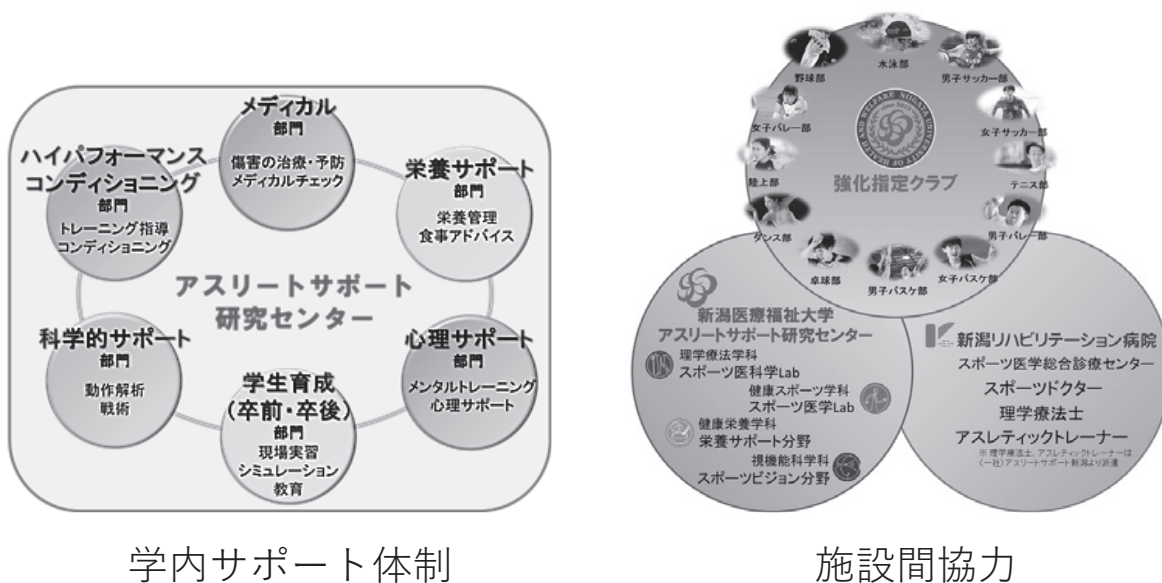
### ●女性アスリートサポート体制の構築

強化指定クラブのアスリートサポートを行う中で、特に女性アスリートのサポートが課題となった。当時、全国的にも自治体などの公的組織による女性アスリート支援は 4 割に満たない状況であり、新潟での女性アスリート支援のシステム構築は全国のモデルケースにもなると考えた。

そこで、前述の江玉教授が中心となりスポーツ庁の課題研究に応募し 2 つのプロジェクトに採択された。まず、令和 2~3 年度の女性アスリートの育成・支援プロジェクト「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究」では、学内強化クラブの女性アスリートを対象に女性アスリート検診を行いスポーツ傷害の現状を調査した。女性アスリートの 3 主徴の危険度を摂食障害、BMI、月経状態、骨量、疲労骨折の有無からリスク分類した

\* 新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科

Corresponding author : 大森 豪 (omori@nuhw.ac.jp)



学内サポート体制

施設間協力

図1 新潟医療福祉大学アスリートサポート研究センターの体制

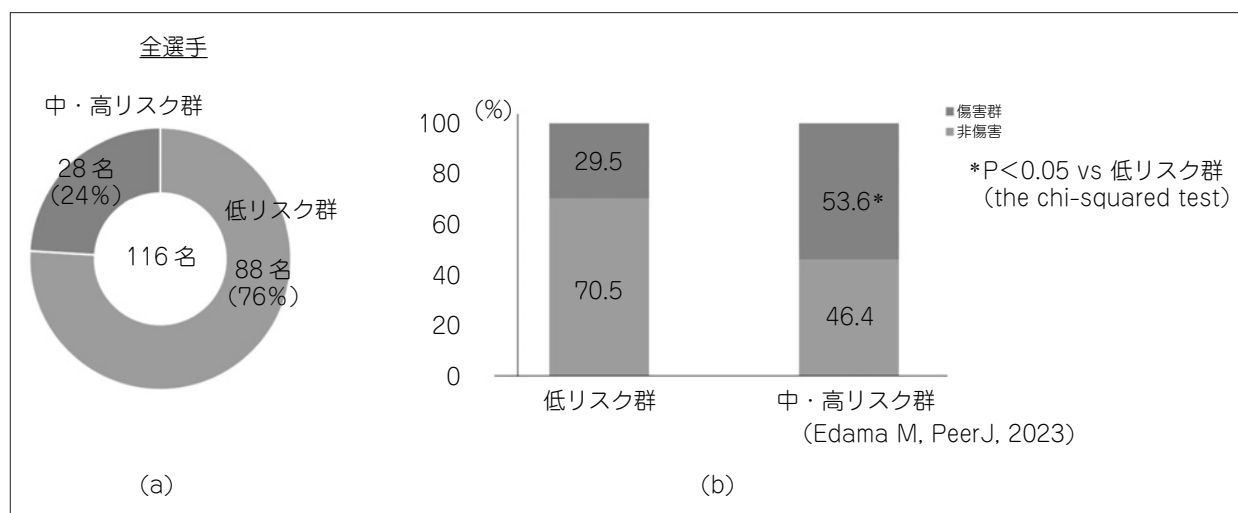


図2 新潟医療福祉大学の女性アスリート検診の結果

- a) 各リスク群の分布
- b) 低リスク群と中・高リスク群のスポーツ傷害発生の比較

結果、中・高リスク群で有意にスポーツ傷害の発生が多いことが明らかとなった(図2)。さらに、令和4,5年度「女性アスリートの課題解決型実践プログラム：地域の女性アスリートが居住地域等で医科学支援を受けられる体制の提案・実施」では、新潟リハビリテーション病院スポーツ医学総合診療センターを中核拠点として新潟県内2か所に地域拠点を整備しその地域での女性アスリート検診を行い中核拠点との連携を構築した。

### ●新潟スポーツ医・科学コンソーシアム

新潟県における女性アスリート支援プロジェクトはスポーツ庁の高い評価を受け、その後、再び江玉教授の尽力により令和5年度地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業に全国5施設(北海道スポーツ協会、新潟医療福祉大学、京都府スポーツ協会、和歌山県立医科大学、宮崎大学)の1つに採択された。この事業では、居住地に関わらず全国のアスリートがスポーツ医・科学のサポートを受けられる環境を整備する事が目的

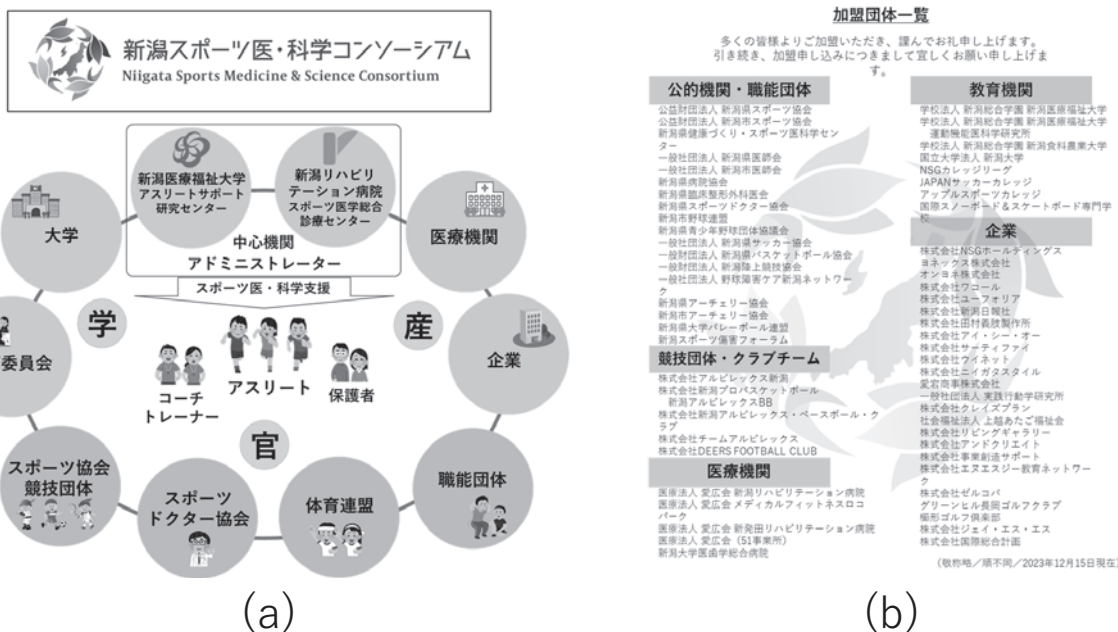


図3 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム  
a) 設立コンセプト  
b) 参加加盟団体

とされている。

筆者らは新潟地域における組織間の「風通しのよさ」を利用して産官学連携によるアスリート支援組織「新潟スポーツ医・科学コンソーシアム」を構築した。コンソーシアム設立にはいくつかの紆余曲折があったが、最終的に60を超える企業や公的機関、職能団体、競技団体、医療・教育機関の参加を得て、2023年12月23日にキックオフシンポジウムを挙行了した(図3)。短期間ではあるが、これまでに「アスリートと企業の交流イベント」, 「スポーツ救護ナース認定講座」, 「新潟・女性アスリート支援ネットワーク」などの活動を行っている。

●さいごに

スポーツは身体と心の健康に欠かせないものとなっている。そして、トップアスリートから一般の愛好者までスポーツを愛する誰もが日本の何処にいても良好なスポーツ医・科学のサポートを享受できる体制が強く望まれている。

文 献

- 1) 政府統計の総合窓口 e-Stat. 入手先: <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/database>
- 2) 新潟医療福祉大学 HP. 入手先: <https://www.nuhw.ac.jp/>